

# 企業誘致を推進します

地域での新たな雇用や産業振興を目的に、人口減少に悩む地域が力を入れている「企業誘致」。

市では、企業誘致条例および企業誘致にかかる基本方針に基づき、まちの特性を生かす方法を考えながら企業誘致活動を推進しています。

## 【企業誘致って何?】

企業誘致とは、市民の働く場所や税収を増やすことなどを目的として、市や県が主体となって工場など（事業所）を地域に招く活動です。

人口減少が進む地方では、事業所新設にかかる奨励金などの優遇制度を定め、誘致活動に力を入れる自治体が増えています。

## 【なぜ企業を誘致するの?】

優遇制度を定めてまで行う企業誘致には、その地域にとって大きなメリットがあります。

一つは、固定資産税、法人税などの税収が増え、市の財政に直接プラスとなること。さらに、地域活性化につながるようなことが考えられます。

## ① 事業所建設のための設備投資が生まれる

新たな工場などを建設すると、建設業者や機械製造業者らが受注し、関連業者の仕事や売り上げが増加します。

## ② 地元での新規雇用が生まれる

事業所ができることで、周辺住民の働く場所が増えます。Uターンや市への移住を考える人の就職先にもなり、人口減少や人口流出に歯止めがかかります。

## ③ 地元生産者・企業に需要が生まれる

原材料の生産者などに新たな需要が生まれ、地域の産業が活性化します。



## 【つがる市の現状と課題】

市では、企業誘致を人口減少に歯止めをかける特に重要な施策と位置づけ、工場建設や地元の雇用を促す奨励金などの優遇制度を定め、企業誘致活動を行っています。

現在市内には、合併以前からの誘致企業も含め9社（うち県誘致5社）があり、約350人の雇用を生み出しています。更なる誘致を図るため、昨年11月には「企業誘致検討委員会」を庁内に設置。課題を整理し、受け入れ体制の整備などについて検討しています。

委員会では、誘致に向けた課題として、土地利用の規制（農地転用など）が厳しいために新しい用地を取得しにくいこと、事業所として使える空き物件の老朽化など受け入れ体制が万全でないこと、また、全国的に市の知名度が低いことなどが上げられています。

## 【今後の取り組み】

優遇制度の充実や土地利用の整備など、企業が魅力を感じる環境づくりを図っていきます。

また、来年開設予定の「つがる市東京事務所」を拠点に、首都圏を中心とした優良企業の情報収集や企業への売り込みを積極的にを行い、企業誘致の実現に向けた活動を強化していきます。

木造奥田縫製で働く従業員。年齢層は幅広く、多くの地域住民が働いています。



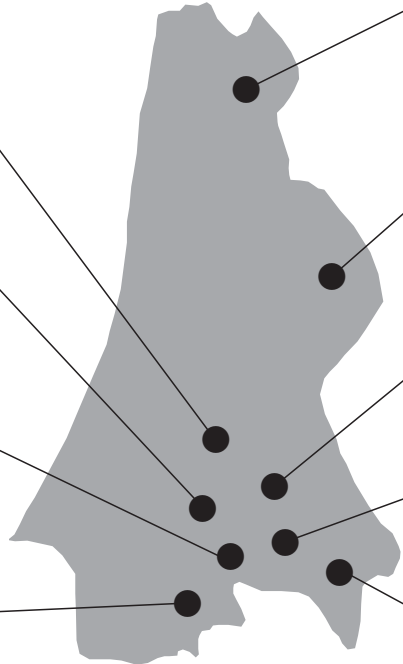
# 市内の誘致企業の立地状況

**(株)木造奥田縫製 (繊維工業)**  
所在地：木造大畑  
創業年月：昭和57年4月

**(有)ピオ青森ファクトリー (繊維工業)**  
所在地：木造柴田  
創業年月：平成11年6月

**(株)みちのくジーンズ青森工場 (繊維工業)**  
所在地：森田町森田平山  
創業年月：昭和57年6月

**(株)宮坂ポリマー青森 (ゴム製品製造業)**  
所在地：森田町森田月見野  
創業年月：平成4年10月



**青森リバーテクノ(株)車力工場 (電気機械器具製造業)**  
所在地：富蒔町  
創業年月：昭和48年8月

**(株)キョウワソーイング (繊維工業)**  
所在地：稲垣町繁田  
創業年月：昭和55年10月

**(有)日向ニット (繊維工業)**  
所在地：木造千年  
創業年月：昭和61年7月

**(株)アグレックスつがるセンター (情報サービス業)**  
所在地：木造桜木  
創業年月：平成28年4月

**(株)柏奥田縫製 (繊維工業)**  
所在地：柏玉水  
創業年月：昭和59年5月

## 今月からスタート 誘致企業インタビュー



**(株)木造奥田縫製**  
従業員数 45人(H30年5月現在)  
事業内容 繊維工業  
主要製品 メンズスラックス  
生産量 年間約83,000本

**(株)柏奥田縫製**  
従業員数 48人(H30年5月現在)  
事業内容 繊維工業  
主要製品 学生ズボン  
生産量 年間約90,000本

第1回目は、株式会社木造奥田縫製・株式会社柏奥田縫製  
統括取締役 三上 敬さん (市誘致企業等連絡協議会会長)

- Q. 奥田縫製の事業内容、会社の特徴を教えてください。**  
A. 奥田縫製グループは、本社を岐阜県に構え、県内に3カ所、ミャンマーとベトナムに1カ所ずつ工場を持つグローバル企業です。メンズパンツの生産に特化し、木造工場ではドレスパンツからカジュアルパンツまで幅広いデザインに対応、柏工場は学生ズボンを専門にしています。創業以来、従業員はみんな津軽地域の方で、現在は8割以上がつがる市民です。
- Q. つがる市で開業した経緯は？**  
A. 県内で生産拠点を探していたところ、県からの紹介や旧柏村からの熱心なお誘いがありました。必要な従業員が確保できる人口規模と、工場に適した空き施設を提供いただいたことが決め手となりました。
- Q. つがる市で事業を行う上での魅力は？**  
A. 津軽の人は、まじめでがんばる人が多く、その気質が高品質な製品を生み出します。また、台風などの自然災害が少ないことも魅力の一つ。物流も申し分なく、津軽道の整備により、ますますよくなるでしょう。
- Q. 地域活性化に向けて企業の役割とは？**  
A. 「安心して働ける場所として地元に残り続けること」が企業の務めだと考えます。その実現のため、ベテラン社員の知識や技術を土台に、若いメンバーの声を取り入れながら、企業の新陳代謝を図っています。
- Q. 市の誘致企業政策について一言お願いします。**  
A. つがる市を選択してもらうためには、工業団地の整備や土地の無償貸与など、企業が魅力を感じる大胆な政策が必要だと思います。また、誘致する企業の規模にこだわらないこと。例えば、従業員が少ないIT関連企業は教室一つあればオフィスとして成立する。そんな企業には、廃校舎の一室を貸して一つの建物に複数の企業を招くなど、いろんなアイデアとともに市の魅力を発信することが必要だと思います。